

正誤表

『臨床検査法提要』改訂第36版第1刷（令和7年9月25日発行）に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

2026年1月29日

金原出版株式会社

記

頁	訂正箇所	誤	正
85	17~19行目	<u>溶液内に生じた粒子に赤外線高性能LEDによる840 nm付近のレーザー光を照射すると、粒子の直径よりも光の波長が大きいためRayleigh(レイリー)散乱と呼ばれる散乱が起こる。散乱光の強度は粒子の中心から等方的であり、放射光散乱強度(I)は…</u>	<u>溶液内に生じた粒子に840 nm付近の赤外線高性能LED光を照射すると、抗原抗体複合体の粒子径が入射光の波長より十分小さい場合にはRayleigh(レイリー)散乱が起こる。さらに抗原抗体反応が進行して凝集塊の粒子径が波長と同程度、もしくはそれ以上となると、散乱はMie(ミー)散乱の寄与が増大し、前方散乱光が相対的に増加する。一般に、散乱光強度の角度分布は粒子径に依存し、粒子径が十分小さい領域では散乱はほぼ等方的に観測され、散乱強度(I)は…</u>
297	表4-24 顆粒球系(M) 骨髓芽球の Wintrobeによる平均	0.9 (0.1~0.7)	0.9 (0.1~1.7)

以上